

2014年11月21日、韓国の国家報勲處は大田頭忠院(国立墓地)で「独島大捷」60周年記念式を行った。「独島大捷」とは、1954年(昭和29年)11月21日に竹島で海上保安庁巡視船「へくら」「おき」を韓国人が砲撃した事件である。巡視船への銃撃は前年の7月と、同年8月にも起きていたが、この砲撃事件で韓国の竹島不法占拠は決定的になった。

当時、日本政府は問題をあくまでも平和的に解決する方針で、危うく難を逃れた巡視船が韓国と交戦したわけではなく、その実態は「独島大捷(勝利)」などではない。式だった。洪淳七隊長の「独島大捷」記念式に証言によれば、「傷痍軍

島根県竹島問題研究顧問 藤井 賢二



合わせて行われたのが、人などで構成された33名の功労者とされる独島の守備隊員は、53年4月に隠岐高校実習船・鵬丸から米6升を与えられて警察に引き継いで解散するまで、独島に接近する日本の巡視船を阻止する

20日独島に上陸して、56年12月30日に独島警備を5年には独島義勇守備隊

に駐留していなかった。33人の中にはニセ隊員が54年5月の鳥取県水産試験場試験船・鳥取丸の竹島調査の時に日本人が

96年に韓国政府は元守備隊員を叙勲し、2003年には独島義勇守備隊を称賛する声があった。

96年に韓国政府は元守備隊員を叙勲し、2003年には独島義勇守備隊を称賛することによって、韓国は日本

相手は、洪淳七の証言を全面的に採用している。(2015年8月3日付「メディアトウル」より)。

談論

風発

▷▷451

人であり、彼らは2日前に隠岐高校実習船・鵬丸に登船した。島根県の報告書に残る彼らの名簿に独島義勇守備隊員の名前はない。5月も駐留していない、33人の巡視船を攻撃したのは守備隊ではないなど、顕彰事業を非難する声があった。

96年の朝鮮三一独立運動の民族代表33人を連想させたのは、50人ほどの韓国人が不法漁撈する姿だ

96年に韓国が成功したものの、もしかすると日本にも実効支配維持の可能性を認めうるかも

わずかの差で韓国が成功したものではなかつた事実である。竹島占拠は島支配は、必ずしも確固としたものではなかつたが、それは、1954年夏ごろまでの韓国政府の竹

独島義勇守備隊をめぐる論議

など独島守護のため活動した」という(「独島辞典」より)。

この証言は極めて疑わしい。53年6月に島根県

と海上保安庁が竹島合同調査を実施した。その時

危ないから来るなど忠告

するものだと評価され、そのリーダーは「独島

見たのは、50人ほどの韓国人が不法漁撈する姿だ

った。彼らの中には、「日本に連れて行ってく

れ」と哀願し、5日ごと

対派は非難の声を上げ続

け、リーダーが「竹島の

日」に松江に来て日本人

韓國の竹島不法占拠を考える

54年5月の鳥取県水産試験場試験船・鳥取丸の竹島調査の時に日本人が

33人の中にはニセ隊員がいる。日本の巡視船を攻撃したのは守備隊ではないなど、顕彰事業を非難する声があった。

33人という数字も1919年の朝鮮三一独立運動の民族代表33人を連想させる。

96年に韓国が成功したものではなかつた事実である。竹島占拠は島支配は、必ずしも確固

としたものではなかつた

が、それを守った英雄33名の活動

は韓国の実効支配を証明

するものだと評価され、

そのリーダーは「独島

義勇守備隊の歴史歪曲」

ふじい・けんじ 島根

は韓国政府が「独島を放

棄する」と日本につけ込

本海新聞」より)。

守った英雄33名の活動

は韓国政府が「独島を放棄する」と日本につけ込